



みや た か お り  
**宮田佳緒里**

授業実践開発コース講師

家庭学習や習い事に  
なかなか取り組まない子どもを、  
自らその気にさせる方法を  
教えてください。

家庭学習や習い事の内容がその子にとって楽しいこと、興味のあることなら、子どもは進んで取り組みます。しかし、例えば計算や漢字の練習などは、興味に駆られて取り組み状態になるのは難しいかもしれません。

興味を持ちにくい活動に進んで取り組ませる手立てを考える上でヒントになるのが、子どもがどのような意識を持って取り組むか、という点です。教員や親に命じられて取り組んでいると感じると、子どもはその活動に対して消極的になり、さらなるチャレンジを避けようとしています。一方、自分で決めて、自分の意志で取り組んでいると感じれば、自信を持って積極的に取り組もうとします。つまり、本人がその活動に「自律的に取り組んでいる」

と感じるかどうかのポイントになります。

自律性の感覚を持たせるのに有効な方法の一つは、子どもに選択の余地を与えることです。家庭学習なら、何時になったら始めるか、今日は何をするか、どこまでできれば終わりにするかを本人に決めさせます。いくつかの宿題があるなど、すでに内容が決まっているなら、どの順序で取り組むか、どこで休憩するかを決めさせるのもよいでしょう。自分の意志で選択したと感じながら取り組むことで、自律性の感覚が生まれます。そして、計画通りにでき

たところはたくさん褒め、うまくできなかったところはどうすればよいかを子どもと一緒に考えましょう。そのように自分で決めた計画を実行して達成する経験を積み重ねることで、子どもの自律性が育ちます。

学校の外には、学校内で出合うものとはまた違った魅力で子どもを引き付けるものがたくさんあります。そのような環境下で子どもを家庭学習や習い事に向かわせるのは難問ですが、自律性を育むチャンスと捉え、自律的に行動するための手助けをしてあげてください。



## キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

### 藤原教授が 日本学校教育相談学会賞を受賞



昨年8月、藤原忠雄教授(学校心理・発達健康教育コース)が、日本学校教育相談学会の「第27回総会・研究大会」で平成27年度「学会賞」を受賞。支部理事・事務局長や本部役員を務め

たこと、学会員の研修支援活動での大きな貢献、卓越した実践研究の取り組みなどが評価された。藤原教授は「栄えある賞を頂き、身の引き締まる思いです。研究・研修支援・学会運営において、さらに貢献したいと思います」と喜びを語った。

### 市井教授のポスター発表が 米国の学会で第2位に

昨年8月、市井雅哉教授(臨床心理学コース)が、米国フィラデルフィアで開催された「2015 EMDRIA Conference」のポスター発表で第2位(優秀賞)を受賞した。EMDRIA(EMDR国際協会)は、眼球運動による脱感作と再処理法の臨床・研究・教育などに関するルール策定と各種認定などを行う組織。肯定的な記憶に対する両側性刺激の効果について発表した市井教授は「受賞



は驚き。データ収集、分析を助けてくれた本学修了生の伊藤純君に感謝します」とコメントした。

### 草野教授が作曲家コンクールで 全部門中最高位に輝く



昨年10月、草野次郎教授(文化表現系教育コース)が東京国際芸術協会主催「第18回TIAA全日本作曲家コンクール」の重唱・合唱部門で1位該当者なしの2位(全部門中最高位)を受賞した。「歌ひとつ〜暗い心の夕ぐれに〜」(女声3部合唱)を作曲した草野教授は「今回、受賞記念としてこの作品が東京国際芸術協会から出版されました。作曲をする者として大変光栄に感じています」と語った。